

令和5年度 第1回松田町地域公共交通会議 議事録

日 時 令和5年7月27日(木) 10:00~11:30

場 所 松田町役場 4階 4AB会議室

出席者 : 古舘会長、北村副会長、安藤委員、飯田委員、松本 克己委員、松島委員、山岸委員、澁谷委員、佐藤委員、鈴木克治委員、吉田委員、工藤委員、武尾委員、橘川委員、内田委員(監事)、尾登委員、小川委員、平田委員、福島委員(代理山崎氏)、小柳委員(代理 辻本氏)、田代委員、柳澤委員、椎野委員、鈴木英幸委員

欠席者 : 井澤委員、芹澤委員、和田委員、最上委員、早野委員、宮根委員

事務局 : 政策推進課

鍵和田 龍太、鍵和田 幸義、市川 和男(まちづくりコーディネーター)

一般社団法人 ASHIGARA ON DEMAND 北村 和士

株式会社 SDK 総合研究所 村井 信夫、横溝 雅央、林 八重

オブザーバー: 株式会社丹沢交通 田中 博志

【議事次第】

- 1 開会
- 2 副町長あいさつ
- 3 委員紹介
- 4 会長あいさつ
- 5 議事
 - (1) 令和4年度松田町地域公共交通会議歳入歳出決算書(案)について
 - (2) 地域公共交通計画の策定について
 - (3) 松田町A I オンデマンド交通実証実験運行計画(案)について
 - (4) その他
- 6 閉会

【会議概要】

- 1 開会
 - ・事務局より開会のあいさつ。
 - ・委嘱状を机上配布とする旨説明。
- 2 副町長あいさつ
 - ・松田町の公共交通の現況としては、バスの減便が顕出している。また、高齢化が進んでいく中で、運転免許の返納が進んできている。バスを中心とした地域公共交通の維持、確保が松田町の課題といえる。

- ・本日、昨年度に協議いただいた新たな交通手段、AI オンデマンド交通実証実験運行計画（案）について協議をお願いしたい。
- ・AI オンデマンド交通の実証実験の運行計画は、足柄広域新モビリティ推進協議会で協議いただき、交通事業者と調整をし、関係機関にも意見を聞きながら調整をさせていただいた内容となっている。

3 委員紹介

- ・委員自己紹介
- ・事務局、まちづくりコーディネーター、SDK 総合研究所 自己紹介
- ・一般社団法人 ASHIGARA ON DEMAND 概要の説明
- ・オブザーバー 自己紹介

4 会長あいさつ

○会長

- ・昨年度は地域公共交通会議を4回開催したなかで、本日の議題となるAI オンデマンド交通に関する実証実験を実施することをご承認いただいている。
- ・皆さまからの活発な議論を賜りたい。

●事務局

委員31名のうち25名は出席しており、会議が成立していることを事務局より報告。
※欠席者6名については委任状の提出あり。

5 議事

(1) 令和4年度松田町地域公共交通会議歳入歳出決算書（案）について

●事務局

～資料1を基に令和4年度松田町地域公共交通会議歳入歳出決算書（案）について説明～

○監事

- ・歳入歳出に伴う関係書類および関係帳簿等を慎重に審査した結果、いずれも適格かつ適正であることを報告します。

○会長

- ・質問等はないようなので、令和4年度松田町地域公共交通会議歳入歳出決算書（案）につきましては、承認していただいたものとします。

(2) 地域公共交通計画の策定について

●事務局

- ・前回の地域公共交通会議内で会長に一任していただいた、目標値の修正について課題があ

った事項につきましても、今回の資料に盛り込んでいる。

- ・資料の内容について、株式会社 SDK 総合研究所よりご説明させていただきます。
～SDK 総合研究所より、資料 2 を基に説明～

○会長

- ・SDK 総合研究所より説明のあった、前回の地域公共交通会議での 2 つの課題については、会長と事務局に一任していただくということで承認を得ているため、修正内容について検討をしました。その結果について、承諾しましたので、皆様にご報告いただきました。また、指標 2-1 と指標 3-2 について、事前に前回会議のときの質問者の了解を得ている旨、ご報告します。
- ・ご意見、ご質問が出ないので、次の議題へ進めます。

(3) 松田町 A I オンデマンド交通実証実験運行計画 (案) について

●事務局

～資料 3、資料 3-2、資料 3-3、資料 3-4、資料 3-5 を基に 松田町 A I オンデマンド交通実証実験運行計画 (案) について説明～

○会長

- ・ただいまご説明のありました件について、ご意見・ご質問等がございましたら、お願いいたします。

○委員

- ・現状、新松田駅前にタクシー会社 2 社が入って運行させていただいている。料金体系にある非会員の場合、1 回あたり 300 円で乗れるということだが、まだ実証実験ということなので進めていただいて、その中で問題点が発生してきたら、会議で協議していただくことをお願いしたい。

○会長

- ・3 年間の実証実験ですので、いろいろ問題が生じた際にはその都度、地域公共交通会議を持ちまして、最終段階にはまた新たな装いで始めることになると思う。タクシー会社の皆様の意見について、了解しました。

○委員

- ・以前の会議等で、AI オンデマンドの運行する時間帯について、バスの利用者が多い通勤・通学の時間帯については AI オンデマンドの運行を控える、といった話があったように記

憶している。運行の時間帯など、既存の公共交通とのすみ分けは、現状でどこまで協議が進んでいるのか。

- ・以前の会議でも指摘させていただいていると思うが、ミーティングポイント（乗降地点）が松田町だけではなく、大井町にも 31 か所ある。大井町の公共交通担当に了解をとっているのか。
- ・AI オンデマンドは、誰でも活用できるのか、あるいは松田町の住人に限られているのか。対象者について制限を設けない、となっているので、観光客も含めて誰でも使えるものになっているのか。
- ・会員制で登録した人は、必ずバスを購入するのか、それとも会員であっても都度支払えば単発でも利用できるのか、よくわからない。非会員だと 300 円もらう、会員だがバスを買っていない人はどうするのか。

●事務局

- ・既存の交通事業者とのすみ分けについては、運行時間についてピーク、オフピークのような対応になるが、3 交通事業者との調整を重ねている。
運行時間は 6 時半から 22 時までで、車両 4 台のうち、コアタイムの 8 時から 19 時までには 4 台全てを稼働する。コアタイム以外の朝のピークと夜については、2 台だけの稼働とする。
富士急湘南バスと松田合同自動車にはコアタイムにエントリーしてもらっている。北口は、松田合同自動車、箱根登山ハイヤー、富士急湘南バスなどがアクセスしている状態のため、北口には停めないことを前提にしている。1 号車から 4 号車まで、各事業者に配分させていただき、慎重に配慮しており、各事業者と最終的な協議を進めている。
- ・ミーティングポイントについて、基本的には松田町の町域の中におさめたかったが、町内にスーパーが無い状況。こうした背景で、松田町内だけの運行にするのは難しいのではないかと、以前から検討している。特に買い物交通のために、大井町の一部にミーティングポイントを設ける必要があると考えている。この点については、前回の新モビリティサービス推進協議会に、大井町の課長に出席していただいた中で進めているので、十分な手順を踏んでいる。
- ・AI オンデマンドの対象者については、対象者の制限を設けない。大井町の町民も新松田駅まで利用するかもしれない。定額制を取り入れているため、会員制を前提としている。それが持続するための財源を担保している、と考えている。ビジターについては旅行者だけでなく、様子見の方も非会員で利用するかもしれない。会員方式をできるだけ進めたい。ビジターがどれだけ会員になるのか、実証実験をやってみないとわからないと認識している。
- ・バスを購入してもらうだけではなく、現金で都度利用できるようにする。バスを購入した利用者と都度の利用で、差別化を図っていきたい。現金の場合は 1 回片道 300 円だが、

パスの場合は1回あたりに換算すると100円から150円のため、お得感を感じてもらえるようにしたい。

○委員

- ・地域の方の公共交通・移動を助けていく、より良くしていくことがそもそもの目的だと思う。AI オンデマンドを導入することによって、既存の公共交通に乗らなくなってしまうと本末転倒になるので、うまくすみ分けをしていただいて、実証実験が始まって実績等を積むなかで、既存の交通事業者の過去の輸送実績と比較した上で、変かをしっかりと把握して、実証実験の内容を都度修正していただきたい。
- ・対象者に制限を設けないことについて、松田町の財源が入るのに、大井町の町民が自由に乗れるというのは、松田町としてどうなのか。また、誰でも乗れるということであれば、大井町の公共交通にも影響しかねないので、大井町地了解をとって進めていただきたい。

●事務局

- ・先日の新モビリティサービス推進協議会の開催後に、大井町の担当課長と松田町の担当課長とのやりとりの中で、基本的には文書を取り交わしていこうということで共有している。松田町のAI オンデマンド交通に大井町の町民にも乗ってもらうことで、松田町の財源を確保できるということと、大井町としても公共交通が行き届いていない部分を松田町のAI オンデマンド交通が補完してくれるのであれば、大井町民の利便性が向上する可能性もあるという期待を寄せてもらっている。実際の利用状況の数字を分析しながら、改善を図っていききたい。
- ・鈴木課長
大井町地域公共交通会議にオブザーバーとして参加させていただいている。2か月ほど前に、松田町でAI オンデマンド交通の事業を推進する旨を協議会で説明させていただいた。大井町地域公共交通会議の会長が、ぜひ広域連携で事業を推進してほしいとことだったので、町の方向性が決定後、改めて大井町地域公共交通会議にて説明させていただくことを確約している。

○委員

- ・通勤・通学には使えるのか。世帯会員として通勤・通学に使えるのであれば、大変お得に感じる。

●事務局

- ・非常に難しい問題です。AI オンデマンド交通の目的は、既存のバス路線を補完することと、マイカーを運転しなくなった交通弱者をフォローアップすることの、2つある。大量・中量輸送はバスと鉄道が担っており、AI オンデマンド交通の運行では小型車を使用するため、通勤・通学には不向きである。朝夕の通勤・通学には、原則、バスを利用し

ていただきたい。今後、富士急湘南バスとの連携があり、富士急湘南バスのダイヤとの関係を含めて、しっかりと協議していきたい。ご質問に対しては、通勤、通学の時間帯においては、原則、バスの利用をお願いしたいと考えている。

○委員代理

- ・ミーティングポイント（乗降地点）について、県で管理している道路がある。松田町から、簡易なバス停を置いたり、路面に貼付すると聞いている。これだけ多くの場所があるため、その場所を工事する等のことが想定される。まだ10月まで期間があるので、しっかりと協議していただきたい。

○委員

- ・先ほど通勤・通学は使えない、なるべく避けてもらいたいとの説明があったが、資料3-2に、パーソナルパス1の欄に「毎日の通勤やお買い物に便利です」と書いてあるが、どういうことなのか。
- ・ピーク時は新松田駅に入らないとの説明があったが、駅には入らないのか。
- ・パーソナルパス2は、月上限30回まで利用できるとなっているが、どのようにして判断するのか。

●事務局

- ・パーソナル1についての記載は、セールストークのようになっているので、今後注意します。
- ・新松田駅北口には入らず、南口に入ります。北口と南口を使い分けます。
- ・ネクスト・モビリティ社のAIオンデマンドシステムを使用することから、会員のアカウントの利用データがシステム上で自動判別されるため、パーソナルパス2の利用回数が把握できる仕組みです。

○委員

- ・電話予約しても、アカウントはつくのか。

●事務局

- ・電話予約でもシステムに登録するので、確認ができます。

○委員

- ・寄から新松田駅南口までの、バス運賃が300円という価格設定には賛同しかねる。ピークの時間帯を外して、この運賃で駅まで行く方が出てくると、AIオンデマンドがバスの補完ではなくなる。ピーク時、オフピークの線引きをしっかりとっておかないと、補完する方が主体になってしまい逆転する可能性がある。タクシーにも同じことが言える。いわゆる民業圧迫をすることがないように、運行前まで時間があるのでしっかりと協議して

いきたい。

●事務局

- ・まずは社会実証をしてみないと、既存の交通事業者にどれくらいの影響が出るのかがわからない。実証のなかで浮かび上がってくる問題について、町としても真剣に考えたい。

○委員

- ・寄でのイベントの開催時は、富士急湘南バスに、臨時便を出してもらっている。対象者に制限を設けないということだが、イベント開催時には、一定の制限を設けた方がいいと思う。地域住民のためと言いながら、制限を設けなければ、何の実証実験にもならないのではないか。

町税を納めていない人が使っているのか、3年間の税金の無駄遣いではないか。以前もデマンドバスをやったが、良くいった部分もあり不都合もあった。今回は明らかなマイナスではないか。制限を設けることについて、再考してほしい。

●事務局

- ・バス事業者との協議のなかで、桜まつりやロウバイまつりのときは、今回用意する車両だけでは到底賅いきれない。タクシー事業者についても同じ状況になる。そういったときは、大量輸送機関である富士急湘南バスに頼らざるを得ない。いますぐに申し上げることはできないが、状況を見て、イベント期間には会員以外の乗車をできなくする等のアナウンスをしていく必要があると考えている。

○委員

- ・新松田駅南口を利用するということが、南口に行くには交通規制がある。それについて、どのように考えているのか。

●事務局

- ・当然ながら、交通規制を守ります。遠回りになるが、中学校の方を迂回します。今回導入しようとしている車両の高さが2.3メートルほどある。車高制限2.2メートルの小田急線の高架下など通れない場所もあるため、システム上で通れないようにナビゲーションするので、少し遠回りをして運行するエリアがあることをご承知いただきたい。

○委員

- ・予約のアプリはどのようなものなのか。
- ・実証実験の開始後に、見直しをする計画を教えてください。
- ・会員数の目標と収支計画を教えてください。

●事務局

- ・ネクスト・モビリティ社の「のるーと」というアプリを活用します。シンプルなシステムで、講習を実施すると高齢者でも約7割がアプリを使えるようになる。

- ・最長3年間の実証実験のなかで、初年度である程度の問題が出てくると思われるので、見直しをしていきたい。
- ・会員数の目標について、ファミリーパスは約1,000世帯で、核家族の38%を占める。パーソナルパス1と2について、1,187人を対象数としている。パーソナルパス1が34%、パーソナルパス2が17%程度を目標としている。独居高齢者と高齢者夫婦が1,142世帯あり、そのうちの7割を目標に設定している。一昨年にアンケート調査を実施したが、高齢者が切実に交通手段を要望しているため、そのように設定をさせていただいた。また、介護支援やリハビリで通院の必要がある方が、松田町に135人おり、月あたり9回、福祉タクシーを利用している。今年度はリフト付きの車両を導入する予定はないが、来年度以降に、可能であれば1台購入して、廉価な価格で提供したい。

○委員

- ・会議は、計画の中身をできるだけ出して議論をする場なので、アプリも決まっているのであれば、資料として添付してもらい、協議してもらいたい。

○委員

- ・地域公共交通会議とは、新たな運送方法を地域の皆様が交通事業者も含めて話し合いをする場なので、事務局の方で調整しているとか、これから話を詰めるとかではなく、ある程度内容を詰めたものを資料として出してもらいたい。
- ・実証実験の開始後も、交通事業者としっかり調整いただいて、見直しのタイミング等、情報共有してもらいたい。
- ・各事業者から道路運送法の申請をされると思う。早めの申請をお願いしたい。
- ・7月7日の新モビリティサービス推進協議会が開催されたが、新モビリティサービス推進協議会にも、地域公共交通会議の内容の情報提供をしてもらいたい。

○会長

- ・10月1日から実証実験がはじまるが、車両の関係で少し遅れるかと思うが、自治会の皆様には、新しいAIオンデマンド交通の周知をお願いしたい。
- ・松田町AIオンデマンド交通実証実験運行計画(案)について、承認とさせていただきます。

(4) その他(情報共有)について

●事務局

- ・現在、ポスターを作成しています。8月お盆明け頃から、各所に貼りだします。今回の内容を整理したPRパンフレットを9月1日より、自治会長をとおして全世帯に配布したいと考えている。改めて、説明とお願いをさせていただきたい。

6. 閉会

- ・副会長より閉会のあいさつ

○副会長

- ・非常にいい話でありがたいと思うが、私個人としては信用できないところがある。
- ・今日の議題に出た案が定着し、やることが前提ではなく、実際に活かしていくことを考えて協力していきたい。8月の自治会長連絡協議会でかなり質問が出ると思うが、宜しくをお願いします。

以上